

提案型協働事業報告書 (活動支援交付金)

<p>団 体 名</p>	<p>特定非営利活動法人 SmileyDream</p>
<p>1 該当する第6次総合計画の9つのまちづくりの目標</p>	<p>2 安心して子どもを産み育てることができるまち 3 楽しく学び、いきいきとした生活ができる</p>
<p>2 解決へ向けて取り組んだ地域課題</p>	<p>・子育て層の地域参加の減少 ・社会課題を抱えた家庭の増加 ・ライフステージにあった学びの場の開拓 ・不登校児童・生徒の増加</p>
<p>3 協働対象部署</p>	<p>子育て支援課</p>
<p>4 事業の内容等</p> <p>(1) 事業内容と方法 (2) 実施場所 (3) 対象者 (人数等具体的に) (4) 事業PRの方法 (5) その他</p>	<p>(1) ・児童虐待防止啓発イベント(オレンジファミリーフェス)にて町の子育て支援や居場所に関する情報を提供。イベント参加をきっかけに地域とつながり、必要な支援や居場所を利用できるよう働きかける。 ・学校に行かない行けない子どもとその保護者の居場所「こどもトおとなノゆるりサークル」の紹介ブース(ゆるりカフェ)と参加型のお絵描き看板作り。 ・こども主体の工作コーナーを設けてボランティアの見守りの元、自由に作成する。また、こどもフリーマーケットを開催しこどもが店主となり出店することで、普段の生活では得難い学びを経験する。自宅から持ってきた手作りのおもちゃや古着などのリサイクル品のほか、飛び込みでも参加できるように、工作コーナーで作成したものをフリーマーケットで展示販売できるようにする。 ・学生、一般ボランティアの養成。企画会議、事前準備、当日運営に携わり地域で活躍する人材を育てる。 ・「武豊町子育て支援サイト」をリニューアルし、居場所に関する情報を提供する。 (2) 武豊町地域交流施設 (3) 武豊町および近隣市町に在住または通学している子どもと家族 (4) チラシ、コドモン、自団体ホームページ・Facebook等のSNSなど (5)子どもたちとの交流を通して、必要とされる居場所を知る機会とする</p>
<p>5 事業実施により得られた効果</p>	<p>・こども工作コーナーへの参加者は100人超だった。参加した家族からは「いきいきしていた」「子どもが何度も作りたがっていた」などの感想があり、子どもたちの意欲的な姿がみられた。 ・同時開催のオレンジファミリーフェスの参加人数は前年比5%増加しており、子育て層の地域行事への参加者増加につながった。 ・ボランティア人数は前年比80%増加(10人→18人)しており、地域活動への住民の理解が広まり積極的に参加する人が増えた。 ・地域活動を行う団体のボランティア出展は前年より20%増えた</p>

	<p>(5 団体→6 団体)。参加者はより多くの団体と触れ合うことで、児童虐待防止や多文化共生等の社会課題に触れる機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアや日本福祉大学社会福祉学部中村ゼミの学生がボランティアとして参加し、子ども達の自主性を尊重した関わりを持つことができた。また、ゆるりサークルの利用者であることも達や保護者が、イベント内で居場所の紹介とイベントに訪れた人が相談できる場づくりを企画から携わり、準備・当日運営を行ったことによって子どもたちの自主的な活動になり、保護者同士や他の地域の支援者との交流の場となった。 ・イベント参加者との対話の中で、子育て情報を提供し武豊町の子育て支援事業につなげることができた。その後もスマイリーとの関わりが続いており、家事・育児、家庭教育へのサポートが継続的に行われている。
<p>6 次年度以降の事業展開</p>	<p>子どもの反応や保護者の意見、専門家等のアドバイスを取り入れ、より参加しやすい内容にし、世代・性別・文化的背景などの枠にとらわれずに多くの子育て世代が参加できる内容を検討する。若者から高齢者まで活躍できる場を参加者と共につくり、多世代が交流できる居場所づくりを目指す。</p>
<p>7 その他</p>	

※ 記入欄が不足するときは、別紙を添付してください。